

人工スキー場「六甲山スノーパーク」(神戸市灘区六甲山町)で1日、造雪作業が始まった。紅葉が深まる中、12月3日のオープンに向け、ゲレンデでは一足早い冬支度が進む。

同パークは、計3万7千平方メートルの斜面に、3つのゲレンデを備える。例年、開業日に滑れるゲレンデは1カ所だったが、今年は製氷量が多い新型を導入し、中上級者向けのゲレンデのオープンも目指す。

造雪作業では、ホースから次々と吐き出されていく氷の粒が、日光を反射してきらめきながら舞った。24時間態勢で、

人工雪でゲレンデ作り



1日約240トンの氷をまいて、約30日かけて白銀のゲレンデを作り上げる。同パークの担当者は「今年

は2カ所で滑ることができる。約30日かけて白銀のゲレンデを作り上げる。同パークの担当者は

「今年は2カ所で滑ることができる。約30日かけて白銀のゲレンデを作り上げる。同パークの担当者は

製氷機から排出される氷で雪化粧が施されていくゲレンデ。六甲山スノーパーク(撮影・風斗雅博)

六甲山スノーパーク 来月開業へ準備